

私達はキリストにあって新しくされたものですが「過去」というものがその新しい歩みを引き戻そうとします。喜んで信仰生活を始めても、次第に生活が重くなったり、クリスチャンと時間を過ごすこと面倒になったり、過去の悪い習慣に逆戻りしてしまう人が少なくありません。これらの原因はいったい何なのでしょうか？

<02>

私の友人は壊れた原付スクーターを持っておりましたが、登録抹消をしなかったので、毎年4月になると税金が請求され、その結果なんと3年間も無駄に税金を払い続けたのでした。

<03>

じつは、このような事は信仰生活にも起こります。過去において知らないうちに悪霊と結んだ契約は、イエスを信じて、新しく喜びに満ちた生活を始めたとしてもまだ残っているのです。そして、多かれ少なかれ、信仰生活に悪影響をもたらし、人間関係を妨げ、時には神様から引き離されてしまうほどの力を持っているのです。

<04>

この靈的束縛というものは、罪が赦されたかどうかとは別の問題です。また、時には、心の癒しと重なる部分もあるので、幾つかの視点も必要ですが、今回は特に悪霊との契約についてみていきます。

<05>

イエスを信じるなら、どのような罪も赦されますが、それによってもたらされた靈的束縛や靈的な契約が自動的に消滅するかどうかは別の問題です。もちろんそれらが自動的に消滅する場合もありますが、何か心に引っかかる事柄があるのなら吟味したり、誰か信頼できる人に相談されるとよいでしょう。

<06>

その時はすこし、恥ずかしい思いをするかもしれません、その後の一生の間、解放され、平安な生活を送るほうがよっぽど得です。特に長年信仰生活を送っていると、プライドが先行し「いまさら誰にも言えない」となりがちです。ですから、これは救われたばかりの人ほうが受けやすいことでしょう。

<07>

たとえば、結婚以外の関係でSEXをするときに、それも契約行為となります。性行為は肉体や感情の問題だけでなく、靈的な結びつきでもあるからです。

<08>

(第1コリント 6:16 遊女と交われば、一つからだになることを知らないのですか。「ふたりの者は一心同体となる。」と言われているからです。 6:17 しかし、主と交われば、一つ靈となるのです。

<09>

SEXは肉体的な行為だけではなく、相手の体と靈的にひとつになる靈的な行為です。また、相手が抱えている靈的束縛、家系の呪い、その他もろもろの靈的影響を受けてしまう可能性があります。

<10>

ですから、過去の罪を悔い改めるだけでなく積極的に、その過去の契約を破棄していく必要があるのです。

<11>

自分では自覚がなくても、宗教的な行事に参加するだけで知らない内に結ばれる事があります。また、たとえば占ってもらう事は、悪霊の力を帯びた人を自分の祭司とする事ですから、それは靈的束縛をもたらします。

<12>

日本では多くの神々を信じていますが、実際には神が大勢いるわけではありませんし、中立の存在でもありません。申命記32章17節に「神ではない悪霊どもに、彼らはいけにえをささげた。」と書いてあるように、それは中立的な存在ではなく悪霊なのです。

<13>

多くの人の神概念は「山にはたくさんの登山道があり入り口は異なるが、結果的に目指す頂上は同じだ。同様にどの宗教からでも最終的には同じ神に到達する。」と考える人がいますがそれは正しくありません。

<14>

聖書によれば、この天地の全てを造られた神以外を神としてはならない（マタイ4:10）と書いています。それを排他的だと感じる人がいるかもしれません。でも夫が妻に対して「あなたの夫は私ただ一人」と言ったとしたら、その夫は、排他的で、傲慢なのでしょうか？そんなことはありません。

<15>

友達なら、何人でも友人を持つことができます。でも伴侶はただ一人なのです。本当の神との関係は親子の関係であったり、結婚した伴侶のように、ほかに代わりが無いものです。

<16>

聖書では、他の神々を信じたり偶像礼拝をすることを、結婚の契約を結んでいない人とセックスをすることに例えられております。ですから、キリスト教用語として、これを「靈的な姦淫」と呼びます。

それは「夫婦の関係」は「真の神と人との関係」を表すものとしてこの地上で作られた制度だからです。

<17>

日本の習慣の中には、知らず知らずのうちに靈的束縛をもたらすものがあります。

たとえば「七五三」です。これは「子供を神社に連れて行き子供が受け守られるようにするもの」です。しかし、それは靈的な契約行為であり、「この子供を捧げますから、守ってください」という交換条件なのです。

<18>

文化、習慣としてまつっているだけの家の宗教であっても少なからず影響はあることでしょう。

創価学会、真光、エホバの証人などの新宗教の場合ももっと影響が大きいことでしょう。

エホバの証人などの家庭で育った場合、律法主義的なトラウマも生じるので、心の癒しの過程も必要です。

<19>

「出エジプト 20 章 5 節」にあるように、3代、4代前の先祖が結んだ偶像との契約が、その人に束縛を与えることもあるのです。

<20>

精神病、アルコール中毒、淫乱、家系に多い癌などの病気などもまた家系に影響を与えます。これらの原因は遺伝であったり、家庭環境におけるトラウマが再生産されているなど、精神的な問題ではありますが、靈的な場合もありますし、また、それをきっかけにして悪霊が乗じることもあるので、靈的問題に発展しがちです。

<21>

日本の文化習慣や、家の宗教、そのなお事柄が、どれくらいの問題を生じさせるのかは、人によります。大した影響がない人、つまり、もともとそれほど影響が無い人もいますし、あるいは、たとえば、キリストを信じたときに自動的に解放される人もいます。しかし、自覚がないだけで、靈的に損失を被っており、まことの神様を知ることが知らないうちに妨げられているケースも多くあるのです。

<22>

いずれにしても、本人の意思ではなく、親によって結ばれた契約であったとしても、その契約が破棄されるまでは悪霊はその人の人生に対して、権利を持っているのです。

ですから、すべての人が一度立ち止まり、自分を吟味されると良いでしょう。

<23>

契約破棄の方法。

基本的には一人でもできますが、信頼できる人と一緒にされたほうが効果的です。穴に落ちた人は自分で這い上がるより、上から引き上げてもらったほうが簡単に脱出できるのと同様です。

<24>

1) 問題点に気が付く

<25>

2) 祈りによって、その問題点に神様の介入を求める

<26>

3) その束縛を断ち切る祈りを告白する。具体的であればある程よいがわからなければそれでも良い。

たとえば神々にささげられたような場合は「私は〇〇の時に〇〇神社で〇〇をしましたが、それは間違った契約でした。私はそれをイエスキリストの名によって断ち切れます。」などと告白します。

<27>

4) 一緒に祈ってくださる人がいるなら、束縛が断ち切られたことを宣言する。

(例えば) 〇〇さんが〇〇で〇〇した契約はイエスキリストの名によって断ち切られ〇〇さんが自由となったことを宣言します。

<28>

5) 解放された分野に神様を招き、聖霊に満たされるように祈る

<29>

注意点とフォローアップ

この解放のミニストリーは、①教会生活や交わりという大きな枠の中の、②心と体と靈の癒しという分野の中の、③カウンセリング的な働きを助ける補助的なものです。ですからこれさえ受けさえすればよいというものではなく、引き続き健全な教会生活を過ごし、心のケアや魂の取り扱いを受け続けることをお勧めします。